



大道芸

通信



編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄

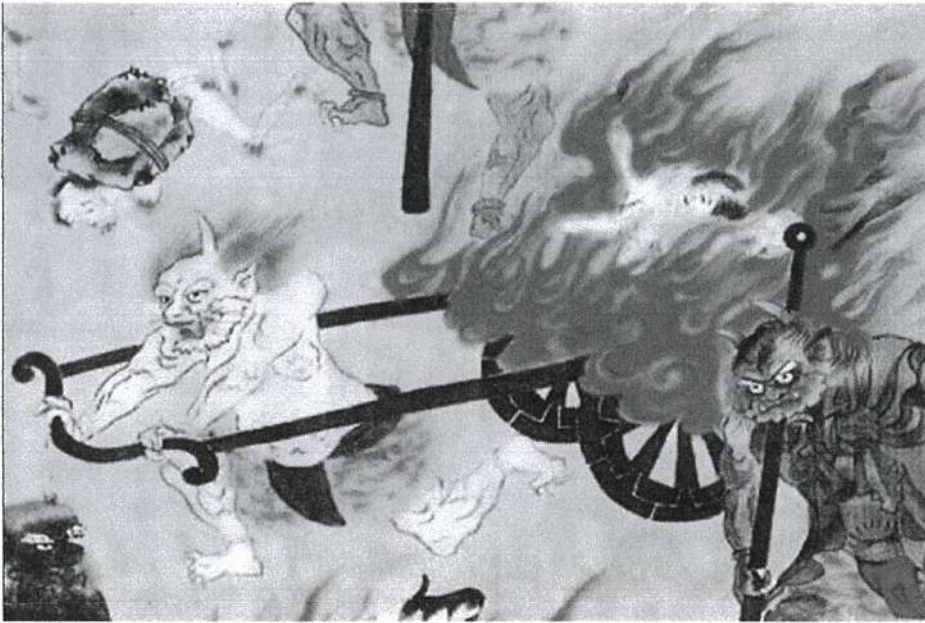
(daidogeikib.biglobe.ne.jp) http:// daidogeiseesaa.net

日本の生業

(本号記事は昨五月十九日に日本風俗史学会近世史分科会で喋った際に配付した資料の写しである。本紙読者には焼き直し部分も目立つがご容赦ください)

生業とは生活を維持するのに必要な仕事や職業のこと。従って人類の歴史と共にある。記録としては『魏志倭人伝』に「老岐対馬の人たちは南北に市糴(交易)している」と書く。そこまで遡らなくとも室町時代頃から、記録に残る。『山城名勝志』(宝永二年・一七〇二)約三十年間板は、応安二年(二二六九)の四条立売の条に左記のように書く。

「火の車」を曳く鬼が右手を掛けている部分が「轆」



○四条立売(今東洞院ノ東富操り人形を出 物真似をし小路二丁目ノ間を号四条立売)

建武以来追加(禁制)

一ヤクヲコボチウル事

附車クレノ商賈四条町の立ウリ云々

応安二年二月廿七日

(『山城名勝志』)

元禄時代には未だ香具師という言葉がなかったから、やがて追い越すようにこう表現しているが、後に香具師と呼ばれる人たちの売り方である。

「ヤクヲコボチウル事」とは、「轆ヲ壊チ売ること」つまり香具師は元来「香具師」で

まり「轆」くびきを壊し香具師は元来「香具師」で乗せて牛に曳かせる車」やのことである。だから彼ら「牛車(牛荷物を載せて牛が祖神と仰ぐ「神農」は、右二本ある「轆」を繋ぐと同じなのである。何れも部分が「轆」である。牛が「百草嘗めて医薬を知り」曳くにしろ一番力のかかるに由来する。

場所が「轆」である。現在 いずれにしろ此の頃までの解体屋敷敷、最初に致命は文化の中心は上方にあった。香具師集団が全国組織的な部分を取り外し、後はたようである。江戸の物売であることを利用し、幕府ゆつくり解体し、場所をやり替えて再組み立てしたのか、年(一八三〇)に書かれた風へ入り、スパイ活動をさせる。そこまでは知らないが、俗事典『嬉遊笑覧』が次のようにまとめている。

江戸にも京橋に立売といふ

近世になると、誰からも所あり。『事績合考』(明和九年・一七七二)に、ここ『太政官布告』で禁止されが登場する。『人倫訓蒙図彙』の事古老の物語を記して云る遠因となるのであるが、(元禄三年板・一六九〇)が寛文(一六六一〜七三)の次項に記す

載す口上商人である。

頃まで様々の商人己が売物

太政官布告

万の合葉ならびに贅付けの刀脇差などの商 弁舌切 従来香具師ト唱へ来候名目出 弁舌をもてこれを売らして売りたるなり 人万 自今被廢止候事 但銘々商売ノ儀ハ可為勝手事